

2014年度特別研究期間 研究成果概要

所属・職・氏名：社会学部・教授・藤原武弘

研究課題：自己過程としての巡礼行動の社会心理学的研究

研究機関：2014年4月1日～9月30日

研究成果概要

エル・ロシオ巡礼は、マリスマス（湿地）の女王、あるいはブランカ・パロマ（白鳩）とも呼ばれる聖母ロシオに捧げる宗教的行事である。エル・ロシオ村は、ドニャーナ国立公園の入り口に位置している。この地域は、海岸、砂地、湿地帯、松林といった様々の自然が豊かにある、スペイン最大の国立公園である。エル・ロシオの由来は15世紀あたりに遡る。いろいろな話が伝えられているのだが、そのうちの一つは、羊飼いが犬のほえる場所に行くと、そこに聖母像を発見し、聖堂を建てそこにその聖母像を祀った。聖週間（セマナ・サンタ、イースター）の50日後に聖霊降誕祭（ペンテコステス）は開催される。毎年5月か6月に聖霊降誕祭が行なわれるが、今年は6月8日であった。数多くのカトリック信徒がエルマンダー（信徒団体、講）毎にスペイン全土から巡礼にやってくる。集団による巡礼である。エルマンダーの行列の先頭は、太鼓と笛の奏者、次に数頭の馬に跨った講員が続き、講のシンボルのついた杖を手にした人々が徒歩で続く。そしてシンペカードを収めた御輿、そして巡礼者たちが御輿と一緒に行進する。シンペカードとは、聖母ロシオの姿が描かれた布製の旗のようなもので、言葉による説明はなかなか難しい。その後には、馬もしくは牛に牽かれた馬車が続く。巡礼者のいでたちであるが、男性はグレーのズボンに革製の乗馬ズボン、丈の短い上着、白いシャツにつば広の帽子からなるロシオ衣装を着る。一方女性はフラメンコ風の衣装である。フラメンコ衣装ほどフリルは多くなく、丈も短い。馬に乗ったり、歩いたりするのに支障がないように工夫がなされている。女性は花飾りが結髪の上の中央につけられている。男性も女性もたいていはビルヘレン・ロシオのメダルを首に飾っている。

本年（2014年）ヘレスのエルマンダーは6月4日（水）午前9時にサント・ドミンゴ教会を出発した。出発に先立って午前8時からミサが教会内で行なわれた。ミサの参加者は女性のほうが多く、平均年齢は50歳くらい。ロシオの歌と神父のお祈りが半々くらいで、ロシオの歌を歌う合唱団も教会内には控えている。筆者が長期滞在していたヘレスからエル・ロシオまでの距離は60キロくらい。サンルーカル・デ・パラメダまで行き、そこからガダルギビル川を渡るためにフェリーに乗る。一泊目はサンルーカル・デ・パラメダの対岸あたりで野営する。二泊三日の行程で、6月6日金曜日の夜にはエル・ロシオ村に到着する。そして6月7日、土曜日はすべてのエルマンダーがロシオの聖母をまつる大聖堂にご挨拶に伺う。聖母像は木造で煌びやかなマントで覆われ、顔と手だけ見えて、その手には幼いイエスが抱かれている。日曜日の深夜3時頃、厳密には月曜日なのだが、聖母の盗

み出しがあり、その後聖母像がすべてのエルマンダーを巡る。この時にシンペカードにロシオ聖母の霊力が入りこみ、一年間それぞれの村を守護するエネルギーが補填される。それぞれのエルマンダーは自分達の町へと巡礼の帰路につく。ヘレスのエルマンダーは6月12日（木）の夜に帰ってきた。教会の前ではシンペカードが巡礼団一行を出迎え、教会に入りミサが行われ、一連の行事が終了する。

集団性と激憤性がエル・ロシオ巡礼の特徴である。巡礼のエネルギーはロシオの聖母への強烈な信仰心から発している。それを支えているのは、エルマンダーの経済的な豊かさではないだろうか。一週間ちょっととは言え、仕事を休まなければいけないし、途中にはレストランもホテルもないので、大量の食料、飲み物を運んでゆかなくてはならない。それらを運ぶカレータを借り、馬を調達する必要もある。巡礼の途中の休息時には、セヴィジャーナスと呼ばれる踊り伴奏するギタリストも雇わなければならない。かなりの経済的な余裕がなければ、巡礼には参加できない。エル・ロシオ巡礼は、ある種の経済的に豊かな人々に支えられているのである。

現在のところ仮説という形ではあるが、以下4つのモデルを考慮中である。

1 表象モデル：アンダルシアの心の基底はパッションであり、フェリア、セマナ・サンタ、カーニバルという習俗に表象されていると考えるモデル。

2 一次元モデル：聖と俗が対極。セマナ・サンタが聖、フェリアが俗の対極にあり、中央にエル・ロシオが位置する。エル・ロシオ・セントロイドモデル。

3 二次元モデル：聖という軸と俗という軸が直行している。聖なるものと俗なるものの混合がエル・ロシオであり、純粋に俗的なものがフェリア、純粋に聖なるものがセマナ・サンタ。

4 二次元対比モデル：、俗対聖、男性性対女性性という対比で考えるモデル。俗の典型はフェリア聖・男性性の典型はエル・ロシオ、聖・女性性の典型はセマナ・サンタ。